

## 『彼は祈っています』 (使徒の働き 9章10-19節) 2023.10.15.

<はじめに> 天からの光とイエスの声を受けたサウロは、目が見えず、飲食もせずに 3 日間を過ごします。彼の許に、主は一人の弟子アナニアを遣わそうとされます。アナニアは戸惑いを正直に主に告げつつも、最終的には赴き、サウロを新たにして立ち上がらせる役割を果たします。

### I 幻の中で(10-16)

#### ①弟子アナニア

彼はエルサレムからの逃避者ではなく、元々ダマスコに住み、律法に従う敬虔な人で、そこに住むすべてのユダヤ人に評判の良い人(22:12)でした。サウロがエルサレムで迫害し、ダマスコにまで迫害の手を伸ばそうとしていることも、彼は聞いていました(13-14)。

#### ②主からの幻(10-16)

そのアナニアに主は幻の中でサウロを訪ねよう命じます。彼もこの訪問を幻で見たからと(11-12)、主からの幻は漠然としたものではありません。必要なことを具体的に示し(11)、相手にも働き掛け(12)、主が何をしようとしているのかを明らかにされています(15-16)。

#### ③幻に向き合う

アナニアは主の命令への戸惑いを正直に主に告げています。主はそれにどう返されたでしょう。彼が納得できる説明や説得があったでしょうか。主は、「彼は祈っています」(11)と相手の状況を伝え、主の計画とその人が果たすべき役割(15-16)を明白に示されます。

### II 祈るところに働く

#### ①祈る人

主の敵が主に祈る姿こそ、サウロの心の変化を表す絵です。彼は何を祈ったのでしょうか。主は彼を、ご自身の名を運ぶ器として選び、御名のために苦しむことも示すと言われます。主はご自分を信じ祈る者に、主とともに重荷・痛みも担う覚悟も問われます。

#### ②主は示される

主イエスは、サウロ・アナニアそれぞれに幻の中で語られます。幻は絵(ビジョン)です。示される御方がどなたかをはっきりさせ、ご計画とその人が為すべき役割を告げられます。祈り、主と語らう者に、主ははっきりと示されます。主との交わりは相互通行です。

#### ③同じ主が一つのことを(17-19)

サウロとアナニア双方に見せられた幻は一つです。それに従って動き、手を置いて祈るとき、それぞれに示されたことが主によって結び合わされ、主の御計画と導きを確認できます。そしてお互いが同じ主に仕える神の家族・兄弟姉妹であることを実感できます。

<おわりに> 自分の問題課題・必要を神に訴えて解決していただくという面に、祈りの焦点が注がれやすいのではないのでしょうか。むしろ祈りは神との交わり・語らいで、神が私に与えられる役割を示される機会です。この交わりの世界へと進み行きましょう。(H.M.)